

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2013年6月1日
(No. 70・本年度もよろしく!!号)

2013
*
6月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：天田眞



ふ、風格あるなあ…
大木は風格だな。うん

勝手にレッドデータ of 志木 (56)

大木

幸町から柏町へつながる大塚地区の崖線に近いあたりは、斜面林と屋敷林の大木で囲まれた緑豊かな地区でした。数年前の区画整理工事でかなり伐採されたものの、数軒の家には立派なケヤキの大木が残されていましたが、昨秋から今春にかけて、残っていた大木が相次いで伐採されてしまいました。写真は西原ふれあい第三公園の斜面林にあったクヌギの大木ですが、幹が斜めで電線の上に覆いかぶさるようになり危険なため、3月に伐採されました。(天田 眞)

NPO 法人エコシティ志木 2012 年度の報告と 2013 年度の予定

代表理事 天田 眞

エコシティ志木 第 11 回 (2013 年度) 総会は 5 月 19 日 (日) に開催され、2012 年度の事業報告と 2013 年度の事業計画が承認されました。

● 2012 年度の活動報告

◆環境、施設の保全・管理及び創出事業

①里山の手入れ：志木市の公園美化活動会制度に登録している「いろは親水公園こもれびのこみち」「西原ふれあい第三公園」の 2 か所の斜面林の日常管理 (清掃、落葉掃き、下刈、伐採、剪定等) を行いました。

②河川敷の清掃：県の「川の国応援団」の河川清掃活動として、柳瀬川右岸志木中学校付近及び新河岸川右岸富士下橋付近より下流で河川敷や水際のごみ拾いを行いました。

③外来植物駆除作戦：柳瀬川右岸の志木大橋から高橋までの区間の、流れに沿った草の刈り残し部分で、アレチウリとオオブタクサの抜き取り作業を延べ 11 回行いました。

◆調査、研究事業

①柳瀬川・野鳥&川の生きものウォッチング：富士見橋～栄橋及び水谷田んぼで野鳥等の調査、志木中前付近で魚類及び水生昆虫等の調査と水質調査を行いました。

②県民参加生き物モニタリング調査：埼玉県の実験的な生物調査に参加し (4 年目)、柳瀬川・新河岸川・水谷田んぼ・こもれびのこみち・西原第三公園等で調査を行いました。

③身近な川の一斉調査：「新河岸川水系」と「全国」の調査に参加し、新河岸川・柳瀬川・荒川・湧水等 8 か所の水を調査しました。

④埼玉県内一斉ガンカモ調査：埼玉県生態系保護協会志木支部が行った柳瀬川での調査に協力しました。

◆観察会及び学習・教育事業

①こどもとおとなの自然塾：子どもたちが自然に関心を持つように「川の生き物を調べよう」「トンボとチョウを見てみよう」「ドングリと落ち葉で遊ぼう」の企画を実施しました。

②自然観察会：大人向けの自然観察会と名称変更して「春の野草観察会」「冬の野鳥観察会」を開催しました。

③小学校等への講師派遣：柳瀬川の自然学習 (3 校)、プールのヤゴ (1 校)、志木小エコクラブで講師を務めました。また、「放課後子ども教室りんくす」・三芳町「竹の子エコクラブ」の柳瀬川での魚捕り体験に協力しました。

④市民講座・学習会等での講師・発表：市民団体等主催の 6 件の事業で講師を務めました。

⑤ボランティア・NPO 活動体験者受け入れ：社協の地域ボランティア体験者を受入れました。

⑥出前水族館等でイベントへ参加：「わっか祭」「こどもまつり」「つむじ銀杏で街合わせ」「いろはふれあい祭り」「志木市民まつり」に参加し、出前水族館等の展示や資料配布等を行いました。

◆出版、広報事業

①エコシティ志木通信の発行：本紙とイベントカレンダーを年 4 回発行しました。

②ホームページ管理：エコシティ志木のホームページで情報発信を行いました。

③活動紹介展示：催事で展示等を行いました。

◆エコツアー事業 (「志木まるごと博物館 河童のつづら」プロジェクトとしての活動)

①ぶらり散歩・見学会：「群馬県板倉町」「宗岡」「新河岸川～隅田川」の 3 回行いました。

②水塚の文化研究事業：水塚に象徴される低地の生活文化の研究を行いました。

③ホームページ運営：河童のつづらのホームページ運営を行いました。

● 2013 年度の主な取り組み

上記事業はいずれも継続していきます。新規には、外来植物駆除事業の一つとして、柳瀬川河川敷の外来種抜き取り作業と学習を一体化した 7 回連続講座として、「川のまち志木☆水辺応援団養成講座」を開催します。また、いろは親水公園内のヨシ・オギ群落保全地域の今後の保全の基礎づくりとして当該地の継続観察を行います。

3/20
(水)

新河岸川ぶらり散歩 「岩淵水門から隅田川へ」

参加者 20 名。今回は前回よりの続きで、北赤羽駅から新河岸川沿い～新旧岩淵水門と荒川知水資料館～隅田川及び荒川沿い～日暮里舎人ライナー「足立小台駅」までと、約 11km を歩きました。

赤い旧岩淵水門は今は役目を終えています、過去の被害とその克服の歴史を「記憶」する施設として今も存在感があります。そして、その下流に位置する現在の青い岩淵水門。このすぐ下流で新河岸川は隅田川に合流し東京湾に注ぎます。大水で荒川の水位が上昇してくると水門を閉じ、隅田川への洪水流を防ぎ首都東京を守ります。

隅田川沿いに下っていくと、カミソリ堤防が残っている地域へ。隣接する住宅や工場地帯は水面よりも低いようです。さらに下ると新しいスーパー堤防上の高層住宅・高速道路の架橋・曲線美豊かな橋が目立ってきます。水際はゆったりと広くとり、ヨシの生育場所を設けるなど植物への配慮もささやかながら感じられます。「日暮里・舎人ライナーや高速道路の壮大な構造物の眺め」と

「自然に配慮した護岸の眺め」。人間の営みの大きさと小さな心遣いの両方を感じることができ、これが新河岸川最下流部を象徴する「文化的景観」かもしれないと思いました。

そしてそして、隅田川のコイ釣りとテナガエビ釣りが釣ったその獲物の行き先が私としては気になって気になって・・・
(毛利将範)



3/3
(日)

街中に蘇った清流・源兵衛川(静岡県三島市)を歩く



「黒目川の景観を考える会」主催の「源兵衛川見学会」に参加してきました。

源兵衛川は、三島駅近くの「楽寿園」内の小浜池から噴出する富士山からの湧水を水源としており、古くから灌漑用水路として使われてきました。しかし、昭和 30 年代中ごろから、上流域での企業の地下水汲み上げや人口増による水道水使用の増加により水量が激減し、川の汚染もひどくなっ

てしまいました。

その後、清流を取り戻す構想を市民が主体となって企画・提唱。市がこの構想実現に向け調整し、市民・企業・まちづくり団体・行政が役割分担し、協働で「街中がせせらぎ事業」を推進。美しい水辺環境が取り戻されました。

源兵衛川は、まさにまちの中の住宅の裏や商店の裏、お寺や神社の脇を通り、そして電車の線路や道路を潜って流れていました。そして、ゴミもなく、小さな魚が泳ぐきれいな川のせせらぎの中を歩けるように、飛び石や木道等の遊歩道が整備されていました。以前は、各戸に川端があり、生活の為に利用されていたようですが、そんな様子がうかがえる共同の川端も残されていました。

志木市にも、かつては野火止用水が流れており、当時の景観が復元できたらと思いつながら三嶋大社でお参りして帰ってきました。
(青木明雄)

5/7
(火)

志木小学校「屋上ビオトープ」見学・検討会

志木小学校の屋上ビオトープは平成15年3月の竣工でちょうど満10年が経過しました。ビオトープの手入れもままならず、最近では乾燥化が進み、メリケンカルカヤやススキなどのイネ科植物の勢力が優勢です。池はフトイやガマ・アシに覆われ、メダカも殆ど生息していない状況です。また、数年前までは毎年カルガモの子育てが観察されましたが、それも見られなくなりました。

そこで、当初ビオトープが何を狙っていたのか、今後どのように子供たちの役に立てていくかについて、話し合いをしました。当日の現地検分には、岩澤校長先生と理科の先生が立会い、話し合いの場では校長先生が同席してくださいました。

ビオトープを作るにあたって、最初は校庭の一部を考えていたそうですが、校庭が狭くなるため屋上に作ることになり、コンセプトとしては「地域の自然を再現する」というもので、「地元の田んぼとその周りの植物や生き物が住める場所を作る」というものでした。完成したビオトープは、池・田んぼ・築山・水路と狭いところに、いろいろな環境を作り出しており、本来これだけの環境には



10倍位の面積が必要だったと思われます。

検討の結果、まず子ども達が観察するために、池の復活が第一ということになりました。池の復活が済んだら次に水路の確保による水の循環をスムーズにし、「水のある風景」を目標にすることになりました。

池をもう一度復活させるためにフトイやアシなどを抜き取らなければなりません、それには人手が必要で校長先生からPTAの方々にも相談してみましようとのことでした。

メダカや昆虫・植物・あるいはカルガモの子育てなどの観察を通して、自然を見つめる子供たちの笑顔を願っています。(山崎光久)

5/26
(日)

柳瀬川の外来植物の生育状況を調べました

6月より開講する「川のまち志木☆水辺応援団養成講座【実践編】」に備え、5月26日(日)スタッフ5名で柳瀬川河川敷の下見をおこないました。

志木中学校前辺りから高橋にかけては一面ネズ



育ちつつあるアレチウリ



東上線鉄橋～志木大橋間のヨシ群落

ミムギ・カラスムギ・セイヨウカラシナが大繁茂。アレチウリの姿はまだ思ったほど多くなく、オギ群落も昨年よりは回復している様子です。

東上線鉄橋から志木大橋にかけては、外来種が目立った繁茂もなく、川に沿ってオギ・ヨシの群落が形成されていました。この場所は5、6年ほど前にアレチウリの大駆除をおこなったところです。「やっぱり駆除の効果はあるんですね」

外来種との際限のない戦いに見える駆除作業ですが、少しは手応えを実感できました。(毛利将範)

ヨシ・オギ群落の保全地

新河岸川と柳瀬川の合流地一帯「いろは親水公園」は、1年前、埼玉県により水辺再生100プラン事業で整備され、今年度から志木市の公園として管理が市に移管された場所です。工事により一部では従来より自然環境が後退した場所も見られますが、生活の中の憩いの場としてはかなり良好な環境が整いつつあります。

この地区の一角、昭和の堤防と平成の堤防に囲まれた低地、特に富士下橋下流から郷土樋管（ごうしひかん：せせらぎのこみちの流末）までの左岸側は、ヨシ・オギ群落の保全地と位置づけられています。（ヨシはアシともいいますが、アシは「悪し」に通ずるのでヨシ（良し）となったそうです。当会でも通常はヨシと表記します）

河川に囲まれた低湿地が多かった宗岡地域にはかつては広大なヨシやオギの原っぱがあったと思われませんが、急速に進む宅地化のなかで今ではほとんどみられません。こうしたヨシ・オギ群落のような原風景をそのまま残しておくことは地域の歴史や文化を考える上で非常に大切なことですし、また動植物の生息環境としても貴重な場所です。

ヨシ・オギなどの生育状況の定期調査

このためエコシティ志木では、このヨシ・オギ群落保存地を継続的に観察し、保護のための基礎資料とし、場合によっては維持のための積極的な提案もしたいと考えています。

こうした自然環境は、多くの水塚に象徴されるように純農村地帯であった志木・宗岡地域の文化的景観の一部とも考えることができますので、「水塚文化研究」事業の一環として取り組むこととしました。

当面は月1回程度、現地でヨシやオギの生育状況を確認するとともに動植物も観察し、保全のための環境整備方法を考えていきます。第1回の調査は5月5日（日）に行ないました。

3月の「砂漠状態」からあっというまに伸び始



乾燥化が進み外来種が繁茂しそうなヨシ・オギ群落の保全地



新設された排水パイプ。これも乾燥化の一因か？

めたヨシの生命力におどろきました。また、ヘビイチゴなど多くの野草とともにオオブタクサやセイバンモロコシなどの外来種も意外に多く、その対策の重要性もあきらかになりました。

群落地の乾燥化が課題

ヨシやオギは湿地性の土壌を好みます。こうした外来植物や低木の増加は、土壌表面が乾燥してきていることが大きな原因と思われ、湿地化のためのなんらかの対策が必要という認識を全員がもちました。

表面を掘り下げる、排水パイプの位置を変える、雨水を貯めるために土壘を設けるなどの意見が出されました。なかでも新河岸川に流れ込んでいるせせらぎのこみちの流末水の一部をここに引き入れて浄化させながら湿地化を進めるという案は、ヨシ・オギ群落の環境改善効果を示すこともできてよいように思われます。（筑井信明）

柳瀬川の春の自然を五感で感じる

NPO法人エコシティ志木理事

加藤 健一



4月28日(日) 志木の自然観察会～柳瀬川の春の自然を五感で感じてみませんか～のようす

4月28日(日)に実施されました自然観察会は、従来「春の野草観察会」として主に野草中心の観察会を開いてきたものです。今年は大きく方向転換して、野草だけでなく志木の自然全体を観察するイベントとしました。また、同時に人間の自然観察力を呼び起こす主旨も持たせて「柳瀬川の春の自然を五感で感じてみませんか」という副題をつけ実施しました。

●志木の自然観察会

～柳瀬川の春の自然を五感で感じてみませんか～

朝9時に柳瀬川駅前を出発し、柳瀬川の川床掘削工事の横を通り、富士見橋を渡って左岸に行き、五感による自然観察を行い高橋まで歩き、今度は高橋を渡り返し、右岸側に行き最後に川の好感度チェックを全員で行って、11時半頃出発点近くに戻り解散となりました。

実施した自然観察を紹介します。

- ・鳥について 聴覚も使い、鳥の警戒の鳴き声や、求愛の声や「聞きなし」など声の違いを感じました。
- ・視覚、嗅覚 橋の上から水の流れ、魚の存在、川の匂いなどを感じました。
- ・野草について 少量の草や花を口に含み、味覚で野草の観察をしました。また、春の七草を題材として、昔の野菜の摂取などを紙芝居

によって学びました。

・音について 自然の音を感じる機会が少なくなりましたが、耳を澄ませ各人の感覚を使いました。

左岸観察中の水谷田んぼではキジのつがいが、ケーンという鳴き声とともにごく近くに出てきたので皆さんの注目をあびました。

最後に全員で「五感による河川環境指標～川の好感度チェック」のシートに記入してもらいました。その結果をレーダーチャートで示しましたのでご覧ください。なおこの様子はJ-Com「ジモネタぐっと東上」-101CHで“志木の自然観察会として紹介されましたので、見た方も多いと思います。

●川の好感度「チェックシート」についての解説

埼玉県水環境課より提供されたこのシートは、化学的な水質分析とは異なりますが、人間の感覚で各人が思った川の好感度をチェックしてもらいます。設問の一部を簡単に紹介します。

- ・水の流れや澄み具合はどうか
- ・魚はいますか
- ・生き物はいますか
- ・ごみはありますか
- ・住民によく利用されていますか
- ・川にいる魚貝エビなどを食べていますか
- ・植物をた

べていますか等を含め 14 項目の設問に対し 4 段階点数で答えていきます。

これらは化学分析とは異なりますが、人間の生活感覚に近い、また化学では得られない要素を含んでいるように思います。全員の回答の最大人数の点をプロットしてレーダーチャート（下図）にして集計結果としたものを掲載しました。

この結果は、各時点での観察者の川の好感度チェックであり、今後時間経過による好感度比較をしていくものと言えます。他の地域との比較をするものではありませんが、各地の測定は県内 130 箇所で開催され、埼玉県ホームページで紹介されていますのでご参照ください（埼玉県水環境課）。

・河川水の化学的分析についての解説

当会では五感による河川環境指標とは別に、化学的分析による水質検査も実施していますので両者を比較していただければ幸いです。（エコシティ志木通信 2012 年 9 月 1 日 No67 「身近な川の一斉調査 2012」に詳細がありますのでご参照ください）

中学校などの協力を得て化学的水質検査を同じ日に全国的に実施されるもので、柳瀬川・新河岸川・荒川など 7 箇所で開催した水の、気温・水温・EC（電気伝導度）・COD（化学的酸素消費量）・アンモニア性窒素・亜硝酸性窒素・透視度を測定しています。

測定結果は『エコシティ志木通信』もしくは当会ホームページを見ていただきたいと思います。両測定の違いは、化学的分析は数値を他の河川と比較できる。また鮎など魚が食べる基準にあるかなどの判断を提供することができます。

他方、五感での調査はこの点で数値を他と比較することはできません。そのかわり河川全体を評価する種々の視点が含まれており、人々の生活と河川の状況を示す指標になります。匂いは？ ゴミは？ 濁っていないか？ など改善せねばな

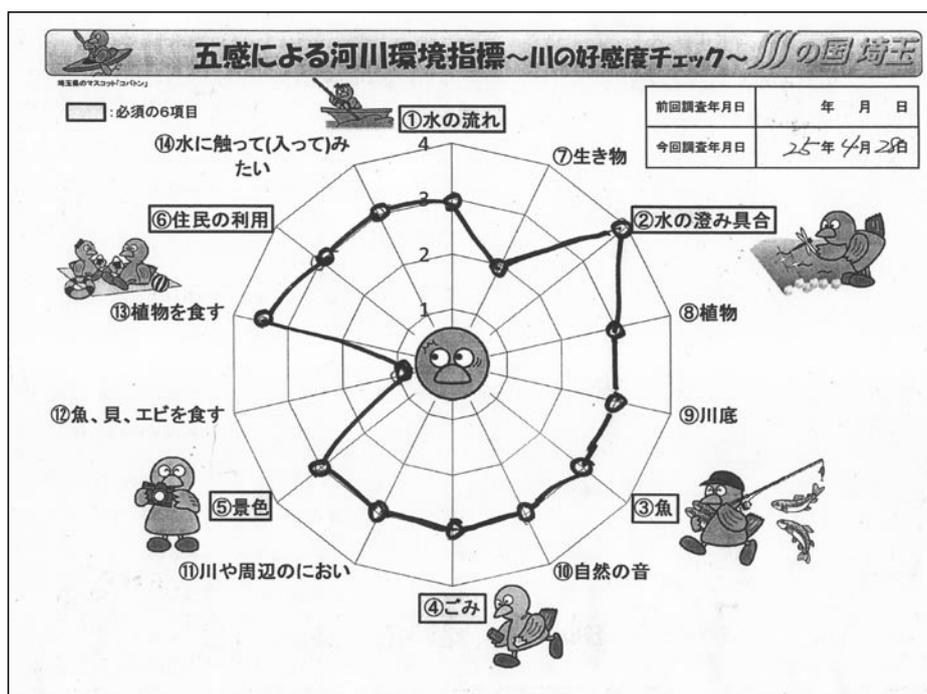
らない項目も明確になります。この点で化学的分析は判断と現状把握にはなりますが、具体的改善点を特定し得ないことが多いと言えます。従って「化学分析」と「五感調査」は両者とも必要で、観察項目をお互いに補う関係と思います。

・志木の自然観察会について

今回、自然観察を自然全体および、人間の感覚という範囲を広げて実施いたしました。この点、ややもりだくさんの観察会となってしまったかもしれませんが、自然は本来多様な要素を含んでおり、また人間の関与により自然は良くなったり、悪くなったりと姿を変えてまいります。

このような観点から、自然の多くの諸要素を感じながら、時に季節に応じたポイントを選んだ自然観察会を実施していければと思っております。また今後、柳瀬川中心の観察から、新河岸川や荒川など観察の場所を変えての観察会も皆様の要望によって可能となるかもしれません。そして地域それぞれの自然を見出していき、改善できる点あればそれこそ皆様とともに具体行動に結びつけられればと思います。ご意見ご希望等もいただければ幸いです。

（かとう・けんじ NPO法人エコシティ志木理事・埼玉県生態系保護協会志木支部支部長）



わっか祭と子どもまつりに参加

当会会員である2団体が、志木ニュータウン中央公園でそれぞれお祭りを開催され、当会も「柳瀬川出前水族館」と「どんぐり・落ち葉工作」で参加しました。

● 4月20日(土) わっか祭

東上線沿線の生活クラブ生協支部と関連団体で構成される、東上線沿線地域協議会主催の第2回『わっか祭』は、小雨のぱらつく肌寒い天気でしたが、食べ物のお店やフリーマーケット、演奏会等で盛況でした。

当会は当日の朝、柳瀬川でハゼ科の魚やドジョウ・エビ・カニ・ヤゴ・カゲロウの幼虫等を持ち、水族館で紹介しました。水中の生き物たちの様子を飽きることなく観察し続けるお子さんも多かったです。どんぐり工作は、材料に自由に絵を描いて楽しんでいただきました。

● 5月12日(日) 子どもまつり

志木おやこ劇場主催の『子どもまつり』は今年で20回目を迎えられ、青空の下、子どものお店



夢中でどんぐりに色を塗る子どもたち(5/12子どもまつり)

や段ボール滑り、クラウンショー等で賑わい、当会コーナーにも多くの親子連れが来られました。

工作ではどんぐりや葉っぱ、マツボックリ、水入れとして用意したはずの紙コップも皆さんの手でカラフルな作品へと変わっていきました。

「また来ます!」「ありがとう」と元気な嬉しい声も沢山いただきました。これからも続けていきたいと思います。

(大田文佳)

志木市環境市民会議からの報告

3月26日(火)、当会からも委員4名が参加し志木市環境市民会議が開催されました。

今後の取り組み方についてフリーに討議をおこない、志木市における環境や市民の環境意識に関する課題、それぞれの委員がいま取り組んでいる活動などが報告されました。

その中で、朝霞市の市民環境会議メンバーが斜面林の手入れを定期的におこなっているという例が紹介され、当会議でも象徴的な活動ができないかという問いかけがありました。そして以下のようなプロジェクトが提案されました。

- ①自然保全再生に関する取り組み
- ②いろは親水公園のオギ・ヨシ群落保全地に関する取り組み
- ③環境フェアのような市民へのPR・広報に関

する取り組み ④資源が循環するまち・生活の中の環境に関する取り組み

①自然保全再生については、自然環境に影響をあたえる可能性がある市の工事に関して検証・提案などを限定的ではありますがすでにおこなっています。他の取り組みについてもすぐに全てが実行できるわけではないが、各担当者が実施の可能性にむけて調査・事例研究をおこない、提案・報告を継続的におこなうこととされました。

特に、②オギ・ヨシ群落保全地については、当会議の象徴的な活動になりそうであることと、活動のアピールと保全の大切さを市民に知ってもらうためにもまず看板を設置したらどうかという具体的な提案がなされました。(毛利将範)

- ◆ツバメ(1) → 3月10日(日) 富士見橋近くの水谷田んぼ(富士見市)で [毛利将範]
- ◆ヒガラ(2) → 3月10日(日) 柏町の長勝院跡で [毛利将範]
- ◆ウグイス(1) → 3月10日(日) 柏町・長勝院跡の藪の中で囀る [毛利将範]
- ◆コチドリ(2) → 3月17日(日) 柳瀬川・市役所付近で。今シーズン初 [山崎光久]
- ◆オオタカ(1) → 4月1日(月) 柳瀬川・富士見橋下流左岸・水谷田んぼ [毛利将範]
- ◆カントウタンポポ(1,000株以上) → 4月4日(木) 宗岡の水田の土手に [毛利将範]
- ◆ニホントカゲ(1) → 4月14日(日) 西原ふれあい第3公園で [青木明雄]
- ◆ヨトウガの仲間(幼虫1) → 4月14日(日) 西原ふれあい第3公園で作業中に。「夜盗蛾」と書き、昼間は隠れていて夜になると畑の作物を食べるそうだ [青木明雄]
- ◆キジ(3) → 4月28日(日) 水谷田んぼ。「志木の自然観察」会で [写真:毛利将範]
- ◆タシギ(1) → 5月3日(金) 水谷田んぼで。まだいるんですね [毛利将範]
- ◆ヒバカリ(幼蛇1) → 5月20日(月) 西原第三公園、水路そば。体長16cm [天田眞]
- ◆アオダイショウ(1) → 5月21日(火) 自宅(本町4丁目)の庭で今年初めて [寺田明子]
- ◆コジュケイ(声1) → 5月24日(金) 慶応志木高校の構内で [寺田明子]



ヒガラ(3/10) [毛利]



カントウタンポポ(4/4) [毛利]



ニホントカゲ(4/14) [青木]



ヨトウガの幼虫(4/14) [青木]



キジ(4/28) [毛利]



タシギ(5/3) [毛利]



ヒバカリ(5/20) [天田]

環境 ひとくちメモ (28) 伊藤 智明

「鳥類の農薬リスク評価・管理手法マニュアル」

環境省は、農薬による陸域生態系への影響について、リスク評価・管理の手法を確立するため、「鳥類の農薬リスク評価・管理手法マニュアル」を作成しました。

このマニュアルは、データ不足のため推計方法が確定していなかった種子処理剤の残留農薬濃度の推計方法を定めています。

農薬メーカーが、鳥類への農薬の影響に適切に配慮した自主的取組を開発段階から行えるようになってきました。このマニュアルにより、農薬メーカーに対し鳥類への農薬リスクを低減するため、幅広く活用いただくようお願いしています。

【日本における農薬による鳥類の死亡事例】

- (1) 鳥類から検出された農薬のほとんどは、日本では過去に登録が失効した農薬である。
- (2) その多くは有機塩素系農薬で、特に DDT 代謝物が高い濃度で検出されている。
- (3) 猛禽類などの鳥類では残留濃度が比較的高い傾向にあり、食物連鎖を通じて体内へ蓄積したことが疑われる。

(出典) 環境省 平成 25 年 5 月 20 日 報道発表資料「鳥類の農薬リスク評価・管理手法マニュアル」について <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=16658>

☆会員状況

2013年度更新済み (5/23 現在)

個人正会員 38
 団体正会員 2
 賛助会員 2

*ご寄附をいただいた方
 長谷川久江様 伊藤智明様 上田勲様

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。
 ★今年度も継続更新をよろしくお祈りします。



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場
 生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校
 志木柳瀬川ロータリークラブ

■当会が参加している団体・ネットワーク・登録制度、及び協力団体

志木おやこ劇場
 いろは遊学館利用者の会
 志木市コミュニティ協議会
 志木市社会福祉協議会
 柳瀬川流域ネットワーク
 新河岸川水系水環境連絡会
 新河岸川流域川づくり連絡会
 柳瀬川流域水循環再生市民懇談会
 新河岸川広域景観づくり連絡会
 彩の国南西部地域NPO連絡会
 川の国応援団
 埼玉県生物多様性保全活動団体登録
 彩の国みどりのサポーターズクラブ
 志木市公園美化活動会
 埼玉県生態系保護協会志木支部
 志木のまち案内人の会
 志木市放課後子ども教室りんくすグループぼんぼこ
 志木市立教育サポートセンター
 市内小中学校

情報満載!
 当会のホームページ

NPO法人エコシティ志木
<http://kappa-no.net/eco-shiki/>
 志木まるごと博物館河童のつづら
<http://kappa-no.net/>

2013年度 役員

代表理事	天田 眞	再任	
理事	青木 明雄	再任	事務局長
	伊藤 智明	再任	
	大田 文佳	新任	
	加藤 健二	再任	
	筑井 信明	新任	
	毛利 将範	再任	副代表理事/広報部会長
	望月 仁	再任	
	山口 美智江	再任	副代表理事/まちづくり部会長
	山崎 光久	再任	水と緑部会長

監 事

宇津木 美恵子 再任
 松田 勝正 再任

2013年度 予算 (2013年4月1日～2014年3月31日)

特定非営利事業に係る事業 (今年度の収益事業計画はありません)

●収入 (単位:円)

科 目	予算額	備 考
1 会費等収入	140,200	
個人会費	115,200	
団体会費	10,000	
賛助会費	15,000	
2 事業収入	280,000	
保全・管理・創出	40,000	公園美化活動報奨金
調査・研究	150,000	生き物調査・水塚文化研修等
観察会・学習・教育	80,000	講師謝金、参加費、資料代等
出版・広報	0	
エコツアー	10,000	河童のつづら
提言	0	
3 助成金収入	75,000	
行政	75,000	県生物多様性助成・市研修助成
その他	0	
4 雑収入	20,000	
寄付金等	20,000	
その他	0	
5 収益事業より繰り入れ	0	
当期収入合計	515,200	
前期繰越金	770,897	
収入合計	1,286,097	

●支出

1 事業費	302,000	
保全・管理・創出	90,000	外来種駆除、斜面林管理等
調査・研究	100,000	水塚文化研究・生き物調査等
観察会・学習・教育	40,000	観察会・総合学習等
出版・広報	50,000	通信、HP、展示等
エコツアー	10,000	河童のつづら運営費等
提言	2,000	
保険料	10,000	
2 管理費	203,000	
租税公課	0	
旅費交通費	6,000	
通信運搬費	8,000	
消耗品費	2,000	
給与手当	0	
事務局経費	160,000	事務局分散運営費
印刷費	2,000	総会議案書等
参加団体会費	13,000	4団体分
雑費	5,000	
会議費	7,000	運営会議会場費
3 予備費	10,200	
当期支出合計	515,200	
当期収支差額	0	
次期繰越金	770,897	

身近で最もよく目にするナミテントウ（テントウムシ）には同じ種でありながら様々な模様のもがあります。このあたりで一番よく見かけるのが黒地に大きな赤い紋が2個あるもの。次が赤地に19個の黒い紋があるものでしょうか。他に黒地に4個の紋もあり、紋の大きさも大小あり、さらに様々な変形パターンが加わりバリエーションが広がります。これらはみな同じ種ですから全く違う模様の虫が交尾しているのに出会ったりします。

ナナホシテントウはナミテントウによく似た感じがしますが別種です。時々見かけるムーアシロホシテントウは小型でかわいい感じで、コクロヒメテントウ（前号に写真を掲載）は幼虫の姿がある種のカイガラムシにそっくりです。

以上のテントウムシは幼虫も成虫もアブラムシを食べますが、コナラにつくナラタマカイガラムシやウメにつくタマカタカイガラムシを食

べるのが、黒地に縦長の赤い紋が2個のアカボシテントウで、集まって蛹になる習性があり、とげだらけの蛹の集団は迫力満点です。また、小型で黒地に小さな赤い紋が2個のヒメアカボシテントウはサクラなどにつくウメシロカイガラムシを食べます。

小型で黄色一色のキイロテントウとシロホシテントウ（ムーアシロホシテントウに似ているが別種）は、葉に白い粉を振りかけたようになるうどん粉病の菌糸を食べる変わり者です。

テントウムシ類は益虫として考えられていることが多いのですが、植物を食べ害虫とされる種もあります。トホシテントウはカラスウリなどのウリ科の葉を食べ、ニジュウヤホシテントウはナスやジャガイモなどのナス科の葉を食べます。どちらも幼虫はとげだらけで、成虫には細かな毛が生えているので艶がありません。



交尾しているナミテントウ。全く違う模様だが同じ種なので問題ない



ケヤキの幹に産み付けられたナミテントウの卵塊。5月ごろよく見られる



卵を食べているナミテントウ。よく探すと時々喰われた卵が見つかる



ケヤキの幹についたナミテントウの蛹



小型のムーアシロホシテントウ



ウメの木のカイガラムシを食べ、集団で蛹になったアカボシテントウ



うどん粉病の菌糸を食べるキイロテントウ。4～5mm



とげだらけのニジュウヤホシテントウの幼虫



ナス科の葉を食べるニジュウヤホシテントウ。草食の種は艶が無い



地球と日本の自然 (9)

水の恩恵について②

加藤 健二

日本における水の恩恵については前号(エコシティ志木通信 69号)で紹介しました。雨は天からの贈り物で、降雨という気象現象でもって地上にもたらされますが、必ずしも天は人類平等に恩恵をもたらしてはいません。日本は世界でもめずらしいほど、雨・水に恵まれていることを前号で書きました。

さて、今回は世界の「水の恩恵」について触れていきたいと思いますが、現実には水の恩恵ではなく、「水事情」という言葉がふさわしいようです。日本のように豊富に雨や雪が降り、水のある国では、「水の恩恵」と書けますが、世界の大多数の国では、全体に水不足です。従って世界では、限りある水をどう使うか、配分するかということが大きな問題です。水は人間の飲み水に始まり、農業・林業、工業、鉱業、化学など、人類のあらゆる活動分野において必要で不可欠の物質です。そして水需要は年々増加していますが、雨で供給された水の保存ができないという問題に直面しています。雨を源とする水は流れて海に注がれ、また砂漠ではいつか砂の中に埋もれ、あるいは大気に蒸散し、人類の活用できる水にはなりません。技術的には海水を真水に転換することは可能です。しかしこれ



は圧倒的なコストを覚悟せねばなりません。コストをかけない有効な貯水方法を考えると、自然現象そのものですが、山に積もる雪や氷にかなうものはありません。自然の水ダムです。結論を急いでしまいましたが、地球温暖化等は積雪減少と氷河の後退をもたらし、人類が利用できる水保存の自然ダムは少なくなっています。このためかつて水の水の争いはありましたが、今後はより深刻な水戦争が心配されます。

なお、世界的な自然を論議した「成長の限界人類の選択」ダイヤモンド社に詳細が書かれていますので興味ある方は是非ご覧ください。

編集後記

◇今回の特集は「五感で感じる」志木の自然です。いつも何気なく観ている身の回りの風景も、五感を意識すれば新鮮な発見がありそうですね。

◇当通信では、今後取材記事も掲載していきたいと考え、取材ボランティア募集中です。専門的な知識は不要。話を聞くのが好きという方、ご連絡をください。(梟)

エコシティ志木通信

第70号 2013年6月1日

〈発行〉

NPO法人 エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com



エコシティ志木の

イベントカレンダー

だれでも
参加できるよ!



2013年 6月→9月



昨年8月19日(日)柳瀬川での「外来種駆除作戦」のようす <写真:毛利将範>

親子で自然を楽しみたい人
地域の環境を守りたい人
志木まるごと博物館を楽しみたい人……

会員募集中



■年会費■

正会員 個人 2,400円 団体 5,000円
賛助会員 1口 5,000円

■入会方法■ 郵便振替等で年会費を納入してください
<振替番号>00510-4-13225 <加入者名>エコシティ志木

NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
電話/FAX 048-471-1338 (天田真)

【ホームページ】 <http://kappa-no.net/eco-shiki/>
【Eメール】 eco-shiki@ff.e-mansion.com



- 特に記載のない場合、参加費は無料です。
- 予定は変わることがあるので、事前に問いあわせてください。
- 会員には毎月ハガキ等で、別途行事案内をしています。

■ボランティア活動に参加しよう

◆斜面林の手入れ（西原ふれあい第3公園）

<原則として毎月第二日曜日、第四土曜日>

【日程】6月9日（日）/6月22日（土）/7月14日（日）/7月29日（月）
8月11日（日）/8月24日（土）/9月8日（日）/9月28日（土）

【時間】いずれも9時30分～11時30分（雨天中止）

【集合】9時30分に東上線側入り口の坂を登ったところ

【内容】西原ふれあい第3公園の清掃・下草刈り・保全等の作業を行います。

【持物】軍手、作業できる服装（長袖・長ズボン・帽子）、
あれば剪定用ハサミ・ノコギリ

【主催】NPO 法人エコシティ志木

【協力】埼玉県生態系保護協会志木支部&志木市道路公園課



◆斜面林の手入れ（いろは親水公園）

<原則として毎月第四日曜日>

【日程】6月23日（日）/7月27日（土）/8月25日（日）/9月21日（土）

【時間】いずれも9時30分～11時30分（雨天中止）

【集合】9時30分にいろは親水公園「こもれびのこみち」あずま屋

【内容】「こもれびのこみち」斜面林および新河岸川河川敷で、ごみ拾い・

下草刈り・シュロの伐採・外来植物の抜き取り等の作業を行います。

【持物】軍手、作業できる服装（長袖・長ズボン・帽子）、あれば剪定用ハサミ・ノコギリ

【主催】NPO 法人エコシティ志木

【協力】埼玉県生態系保護協会志木支部&志木市道路公園課

◆川のまち志木☆水辺応援団養成講座[実践編]（全7回）

【日程】6月16日（日）・30日（日）/7月14日（日）・28日（日）/8月25日（日）/9月8日（日）・22日（日）

【時間】いずれも16時～18時（小雨決行）

【集合】16時に志木中学校前の柳瀬川・土手（志木市柏町3-2-2）

【内容】外来植物の抜き取り作業や植生調査などの実践を通して、いま問題となっている外来種の生態や都市河川の現状について学び、「水辺応援団」として活躍できる人を養成します。

【持物】軍手、作業できる服装（長袖・長ズボン・帽子）、水筒、タオル、筆記用具

【講師】NPO 法人エコシティ理事および生態系保護協会志木支部役員

【対象】高校生以上

【定員】20名 空きがある場合は随時申込受付

【費用】無料

【申込】048-471-1338（天田）

【主催】NPO 法人エコシティ志木

【協力】埼玉県生態系保護協会志木支部&埼玉県朝霞県土整備事務所

【後援】志木市



◆柳瀬川・外来植物駆除作戦

【日程】6月28日(金) 13時30分～15時30分 (小雨決行)

【内容】志木中学校生徒ボランティアとの協働により、柳瀬川右岸に於いて

主にオオブタクサ(要注意外来生物)とアレチウリ(特定外来生物)の除去作業を行います。

【持物】軍手、作業できる服装(長袖・長ズボン・帽子)、水筒、タオル

【主催】NPO 法人エコシティ志木

【協力】埼玉県生態系保護協会志木支部

■調べてみよう

◆身近な川の一斉水質調査

【日時】6月2日(日) 9時～12時30分 (小雨決行)

【集合】9時に志木市役所駐車場(志木市中宗岡1-1-1)

【内容】市内8ヶ所の水を採取し、パックテスト等で水質を測定します。

新河岸川水系約250カ所、全国約6,000カ所と連携した調査です。

【主催】新河岸川水系水環境連絡会、全国水環境マップ実行委員会



◆柳瀬川・野鳥&川の生き物ウォッチング<毎月第三日曜日>

【日程】6月16日(日)/7月21日(日)/8月18日(日)/9月15日(日)

【時間】いずれも9時～12時 (雨天中止)

【集合】9時に志木中学校前の柳瀬川・土手(志木市柏町3-2-2)

【内容】※最初に全員で河原のゴミ拾いをします。

(1) 野鳥：柳瀬川に沿って約4km弱を散策しながら調査します。

<持物> 双眼鏡、あれば野鳥図鑑

(2) 川の生き物：柳瀬川で生き物・水質調査やごみ拾いをします。

<持物> 川に入れる格好、あれば手網・魚類図鑑

【費用】200円/家族(会員・中学生以下は無料)

【主催】NPO 法人エコシティ志木&埼玉県生態系保護協会志木支部



■自然と文化を楽しもう

◆子どもと大人の自然塾 「川の生き物をしらべよう」

【日時】7月28日(日) 9時～11時30分(雨天中止)

【集合】9時に志木中学校前の柳瀬川・土手(志木市柏町3-2-2)

【持物】暑いので帽子・水筒、川に入れる運動靴(長靴・サンダルはダメ)

お魚捕りのアミはお貸しします。

【対象】小学生は志木市在住で定員20名

(小学1年生～3年生は親子で参加下さい。)

※中学生以上は申し込みがなくても参加できます。

【費用】200円/家族(会員・中学生以下は無料)

【申込】小学生はハガキに①児童氏名②学校名・学年③保護者氏名④住所⑤電話番号を記入の上、

7月16日(火)までに(当日消印有効)

志木市立教育サポートセンター(〒353-0001 志木市上宗岡1-5-1/ TEL048-471-2211)へ

お申込み下さい。申込多数の場合は抽選を行います。

【主催】NPO 法人エコシティ志木&埼玉県生態系保護協会志木支部

【後援】志木市立教育サポートセンター



会員募集中!

◆2月◆

- 24日(日) こもれびのこみち定例作業
- 24日(日) 古今防災シンポジウム(新河岸川水系水環境連絡会)
- 25日(月) 志木小学校クラブ感謝集会
- 26日(火) 渡良瀬遊水地研修会(コミュニティ協議会)
- 27日(水) コミュニティ協議会地域活性化委員会
- 28日(木) エコシティ志木通信印刷発行作業

◆3月◆

- 3日(日) 三島源兵衛川見学会(黒目川の景観を考える会)
- 9日(土) 西原第三公園定例作業
- 14日(木) 広報部会
- 16日(土) 柳瀬川源流を訪ねる(東上線沿線地域協議会)
- 17日(日) 柳瀬川・野鳥&川の生き物ウォッチング
- 17日(日) 定例運営会議
- 20日(水) 新河岸川ぶらり散歩 北赤羽～足立小台
- 21日(木) 西原第三公園クヌギ伐採
- 23日(土) こもれびのこみち定例作業
- 24日(日) フリーマーケット(コミュニティ協議会)
- 26日(火) 柳瀬川河床掘削立会打ち合わせ
- 31日(日) 臨時運営会議

◆4月◆

- 7日(日) 水塚の文化研究会
- 14日(日) 西原第三公園定例作業
- 17日(水) コミュニティ協議会地域活性化委員会
- 19日(金) 2012年度決算会計監査
- 20日(土) 第2回わか祭(東上線沿線地域協議会)
- 20日(土) いろは遊学館利用者の会総会
- 21日(日) 2013年度第1回理事会
- 26日(金) 西原第三公園定例作業
- 27日(土) こもれびのこみち定例作業
- 27日(土) 新河岸川水系水環境連絡会総会
- 28日(日) 春の自然観察会(柳瀬川)

◆5月◆

- 1日(水) 2013年度総会議案書印刷発送作業
- 5日(日) いろは親水公園ヨシ・オギ保全区域観察会
- 9日(木) 放課後子ども教室りんくす ヨモギ摘み
- 11日(土) 西原第三公園定例作業
- 12日(日) 第20回子どもまつり(志木おやこ劇場)
- 13日(月) 志木小学校こどもエコクラブ
- 14日(火) 大人のどんぐり教室
- 16日(木) 広報部会
- 18日(土) コウホネ植付け(志木柳瀬川ロータリークラブ)
- 19日(日) 柳瀬川・野鳥&川の生き物ウォッチング
- 19日(日) NPO法人エコシティ志木 第11回総会

暑さにやさしい緑の斜面林手入れ

●
●

落葉樹の葉が落ちた斜面林の中には、太陽の日が差し込み、野草が芽を出し、緑を取り戻してきました。樹木も新しい芽を出し、緑に覆われました。暖かくなるとともに草木の成長も加速度的に早くなり、斜面林も緑に覆われ、力強さを感じる季節になりました。



もうすぐ、西原ふれあい第3公園ではアジサイの花がきれいに咲きます。これからは、咲き終わった花がらの刈り取りや、いきおいよく伸びて邪魔になってくる草木の刈り取りが忙しくなります。特にアジサイの花がらの刈り取りは数も多いので手間がかかります。

また、これからの季節は、植物が一番良く伸びる時期ですから、1か月も放っておくと、中に入れないうちにササやオオブタクサやツル性の植物が伸びてきます。遊歩道にも、これらの植物や木の枝が覆いかぶさってきて、歩きにくくなってきます。

これからの手入れの大変な時期ですが、夏の涼しい風が吹き抜ける斜面林を楽しみに散歩している人の為にも頑張りたいと思います。

皆さんも、自分の手で斜面林の手入れをしてみませんか！お待ちしております。

「日々河童のつづら」(<http://shikikappa.blog54.fc2.com/>)でも活動の様子が分ります。(青木明雄)

